

【歴史文化学科 国語・日本史基礎学力型】

〔一〕

問 1	1	2	3	4
	脱 (いで)	わんぱく	てんぷ	ごうご
	5	6	7	8
	万事	猛烈	頭角	しさ
問 2	屈辱感			
問 3	2			
問 4	5			
問 5	「正味 ~ される			
問 6	3			
問 7	会読とは、			
問 8	3			

〔二〕

問 1	1	2
	ひご	構図
問 2	有馬晴信	
問 3	ウ	
問 4	紫衣事件	
問 5	堺	
問 6	道鏡	
問 7	蓮如	
問 8	今井宗久	
問 9	エ	
問 10	<p>武家政権は芸術・文化を、権力を象徴し表現する有効な手段としてきた。その担い手は公家から武家自身、豪商、庶民へと広がったが、担い手の成長につれ、自らの権力と矛盾しない限り積極的に取り込んだが、権力を脅かすとなれば統制や弾圧も辞さなかった。</p> <p>武家の文化が未熟だった鎌倉時代においては、公家文化にあこがれを抱いた将軍実朝の金槐和歌集などが生まれた。一方禅宗が政権に受け入れられ、円覚寺などが建設された。</p> <p>室町時代には、公家文化や禅宗文化だけでなく庶民文化も政権により取り入れられた。将軍足利義満は寝殿造と禅宗様を融合させた金閣寺を建設したり庶民の間に広がっていた能の観阿弥・世阿弥を保護したりしたし、義政は伝統に禅の簡素さを加えた書院造の東求堂同仁斎を建設した。</p> <p>安土桃山時代には、戦国の騒乱を収めて富と権力を集中した統一政権が、豪商の経済力などを反映した力強い芸術・文化を育んだ。荘厳な城郭建築は狩野永徳などの華やかな障壁画で飾られた。京都や堺などの町衆で発達していた茶の湯は高価な茶器とともに政権中枢でも愛された。南蛮文化も積極的に取り入れられた。しかしそれらは、利休の例に見られるように、政権の威光を傷つけない限りにおいて尊重されたのである。</p> <p>江戸時代になると、前時代から引き続き狩野派が障壁を飾った。しかし、庶民が経済力を持つに従って独自の文化を開花させると、支配の安定を脅かすものとして統制に向かうこともあった。寛政の改革における山東京伝や恋川春町、蔦谷重三郎らに対する処分、天保の改革における歌舞伎の抑圧や為永春水の処罰などである。</p> <p>このように、武家政権は、芸術・文化に対して、その威光を示すための手段として積極的に取り込み、また威光を示すために統制・弾圧してきたのである。</p> <p>(735 字)</p>	